

宿場から明治の川崎

維新後、明治四年に伝馬・飛脚制度が廃止され、川崎は「宿場」としての役目を終えます。さらに翌五年には、新橋・横浜間に陸橋が開通して、「川崎ステンシヨ」もつくれました。そうすると、もはや宿駅としての機能は必要となくなり、いつどきの川崎は火の消えたような寂しい町になってしまいます。

そこから川崎は町の姿がたちを大きく変えていきます。新時代の川崎は、新しい産業を迎えること下発展への礎を築いていきました。明治後半には、川崎から大師までの間に、人力車・馬車以外の新しい交通機関を作ろうと、東日本で最初の電車である「大師電氣鐵道」が開通しています（今の京浜急行大師線）。やがて、味の素や東芝、明治製糖、日本コロムビアといった会社が次々と立地し、農業・漁業で成り立ってきた川崎は、産業の都市へと変わっていました。



六郷川の鉄橋



大師堤花のトンネル



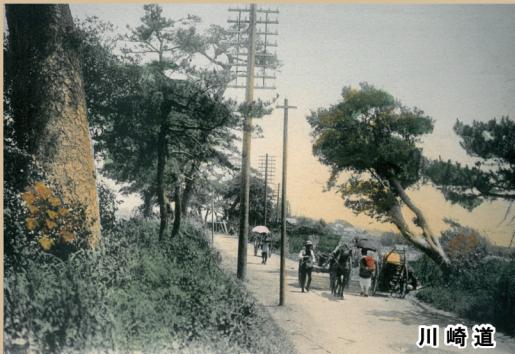
大師門前



明治製糖



旧東海道筋八丁畠の光景 明治43年



川崎道


Colors, Future!
いろいろって、未来。
川崎市

COLORS,
FUTURE!
ACTIONS
KAWASAKI 100th

2024年
令和6年 4月6日(土) ~
5月26日(日)

開館時間：9:00～17:00

休館日：月曜日(祝日の場合翌平日休館)

会場：東海道かわさき宿交流館3階企画展示室